



自分たちで描いた紙しばいを手に持つ豊小学校の児童

【人権リレー紙しばい】

「ジュン、一人で行くんだ」が県内すべての小学校で教材に

平成16年に対馬人権擁護委員協議会が製作した人権リレー紙しばい「ジュン、一人で行くんだ」が、長崎県人権啓発活動ネットワーク協議会（長崎地方法務局・長崎県・長崎人権擁護委員連合会）により500部再版され、県内のすべての小学校（416校）へ配布後、子ども達の人権教育に使用されることになりました。

この紙しばいは、ツシマヤマネコを主人公にした物語で、原作は人権擁護委員の菅野慶全さんが担当。絵は豊小学校の当時の4年生が描きました。完成後、新聞や全国の人権擁護委員、自治体等に配布されている「人権のひろば」の誌上に広く紹介され、好評を得たことから再版が決定されたものです。

配布先の小学校では、人権擁護委員が出向いて紙しばいを上映し、子どもたちに「いじめ」が人権侵害であることや、お互いの異なる点を個性として尊重するなどの人権意識を養うことを目的とした活動に活かされます。

卒業式をひとりじめ 内院小学校（厳原町）

春の陽気に包まれた3月17日、市内の多くの小学校が卒業式を迎えたこの日、厳原町の内院小学校では、たったひとりの卒業生が卒業式を迎えました。

この日の主役である江口悠真くん（12歳）は、5名の在校生（2年生2人、3年生1人、5年生2人）と恩師らに見送られ、思い出の詰まった学びやを後にしました。

式の中、山川勝久校長は卒業証書を手渡した後、「中学校では当初戸惑うこともあると思いますが、小学校で学んだ事をもとに頑張ってください」と江口くんを激励。在校生たちは「内院小で過ごした思い出を胸に、中学校ではたくさんの友達を作って新しい世界を広げてください」とはなむけの言葉を贈りました。

4月からスクールバスで久田中学校へ通うという悠真くんは、「僕が卒業しても、仲の良い内院小学校を作ってください」と後輩に言葉をかけ、「中学校では、友達をたくさん作って楽しく過ごしたいです」と希望を述べていました。



校門近くで在校生らに見送られる江口悠真くん（中央）



温かみのある木造校舎で行われた卒業式の様子